SoftBank

第38回 定時株主総会

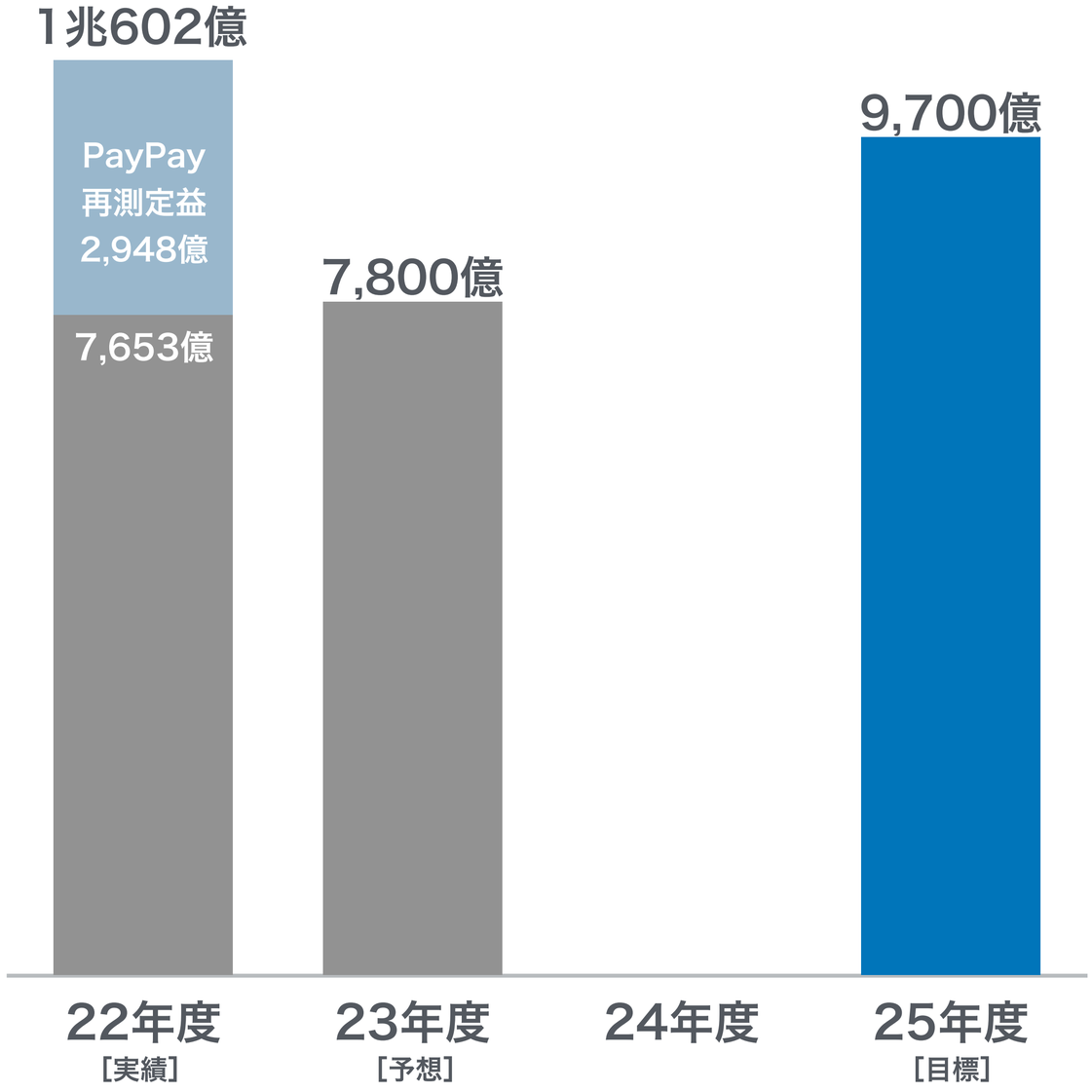
2024年6月20日

免責事項

本資料に含まれる計画、見通し、戦略その他の将来に関する記述は、本資料作成日時点において当社が入手している情報および合理的であると判断している一定の前提に基づいており、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績などは、経営環境の変動などにより、当該記述と大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

連結営業利益予想(中期経営計画発表時)

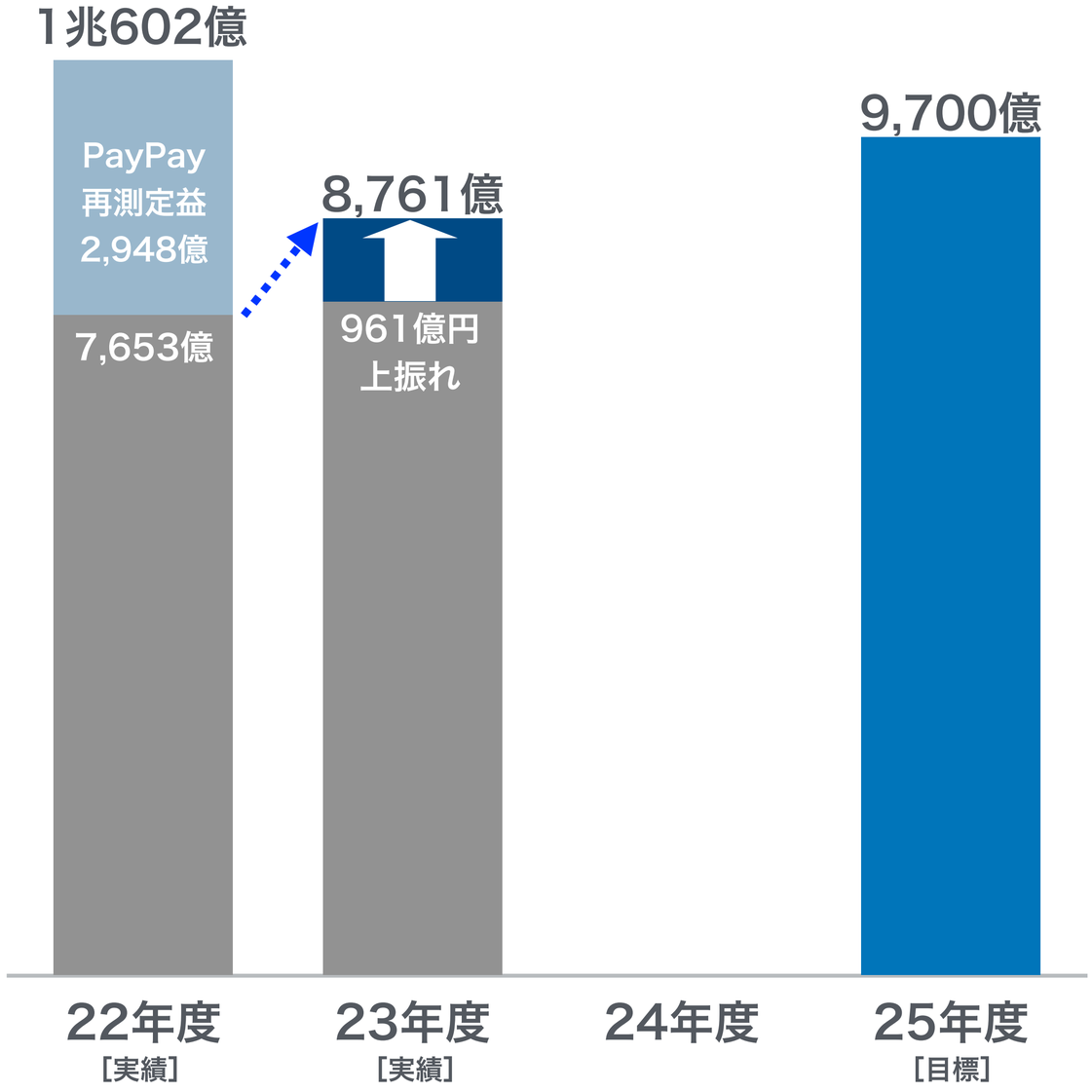
[円]



中期経営計画発表時に
9,700億円目標を公表

連結営業利益予想(2023年度実績)

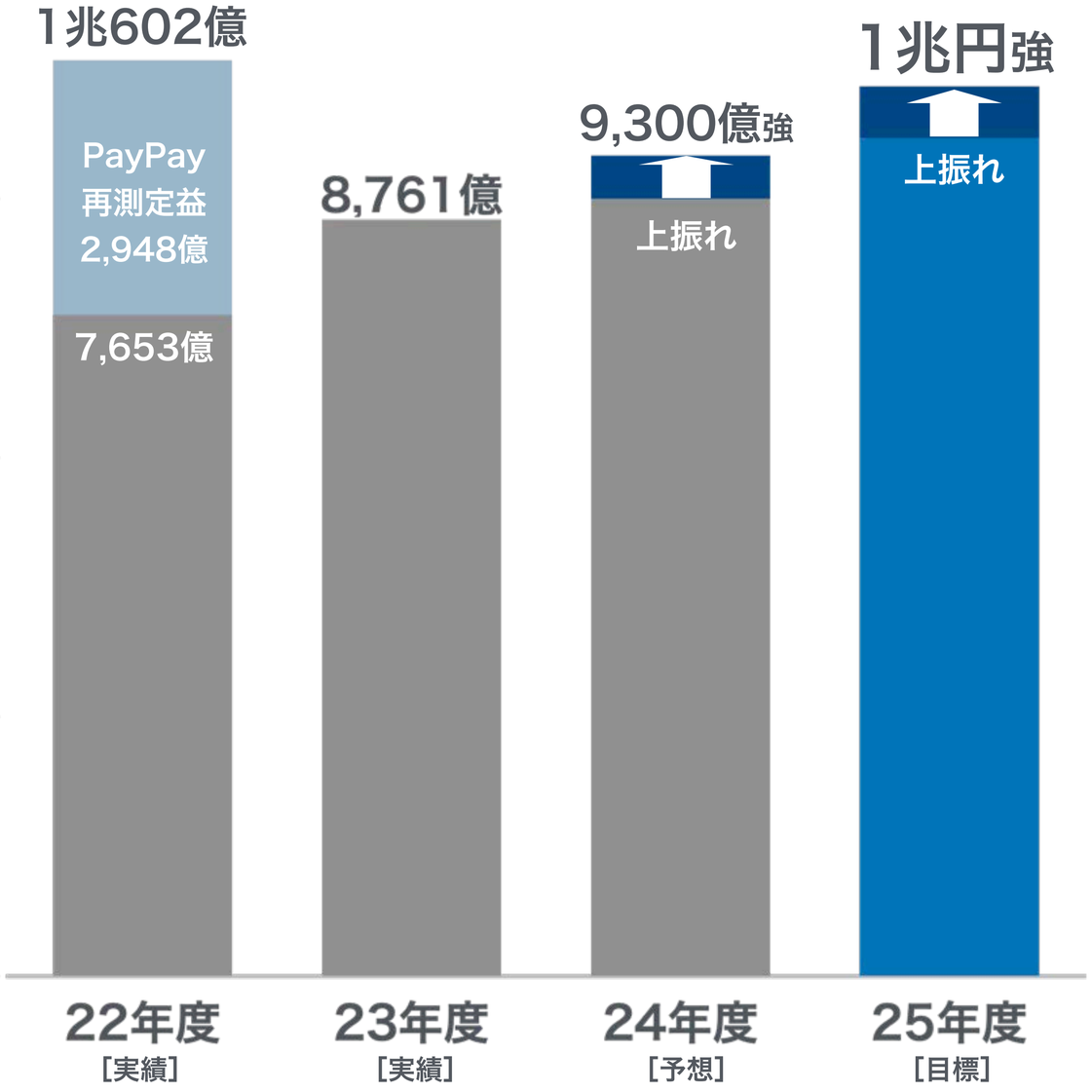
[円]



コンシューマや
メディア・ECを中心に
事業が順調に推移

連結営業利益予想(成長投資考慮前)

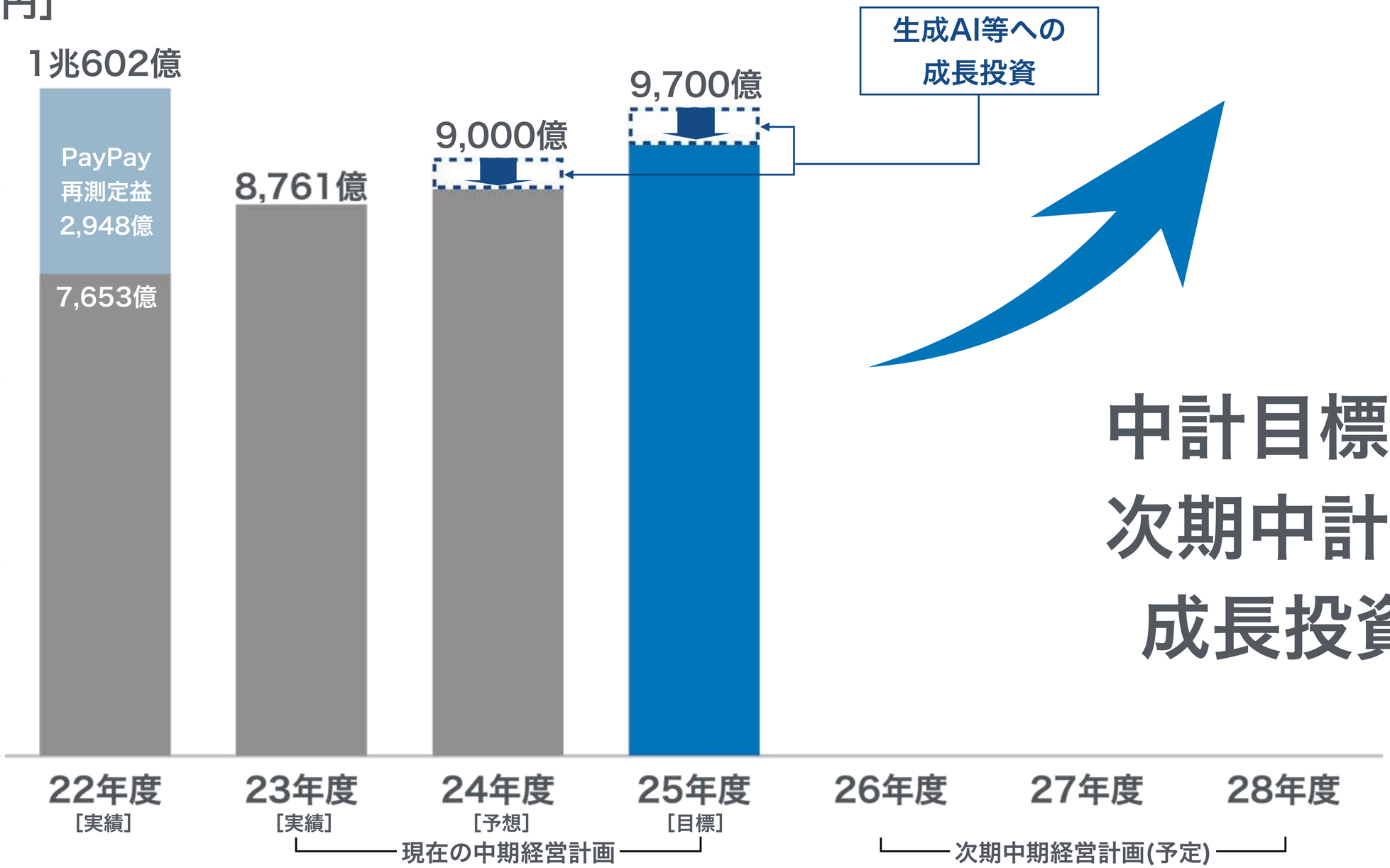
[円]



2025年度には実力ベースで
1兆円強レベルを創出可能

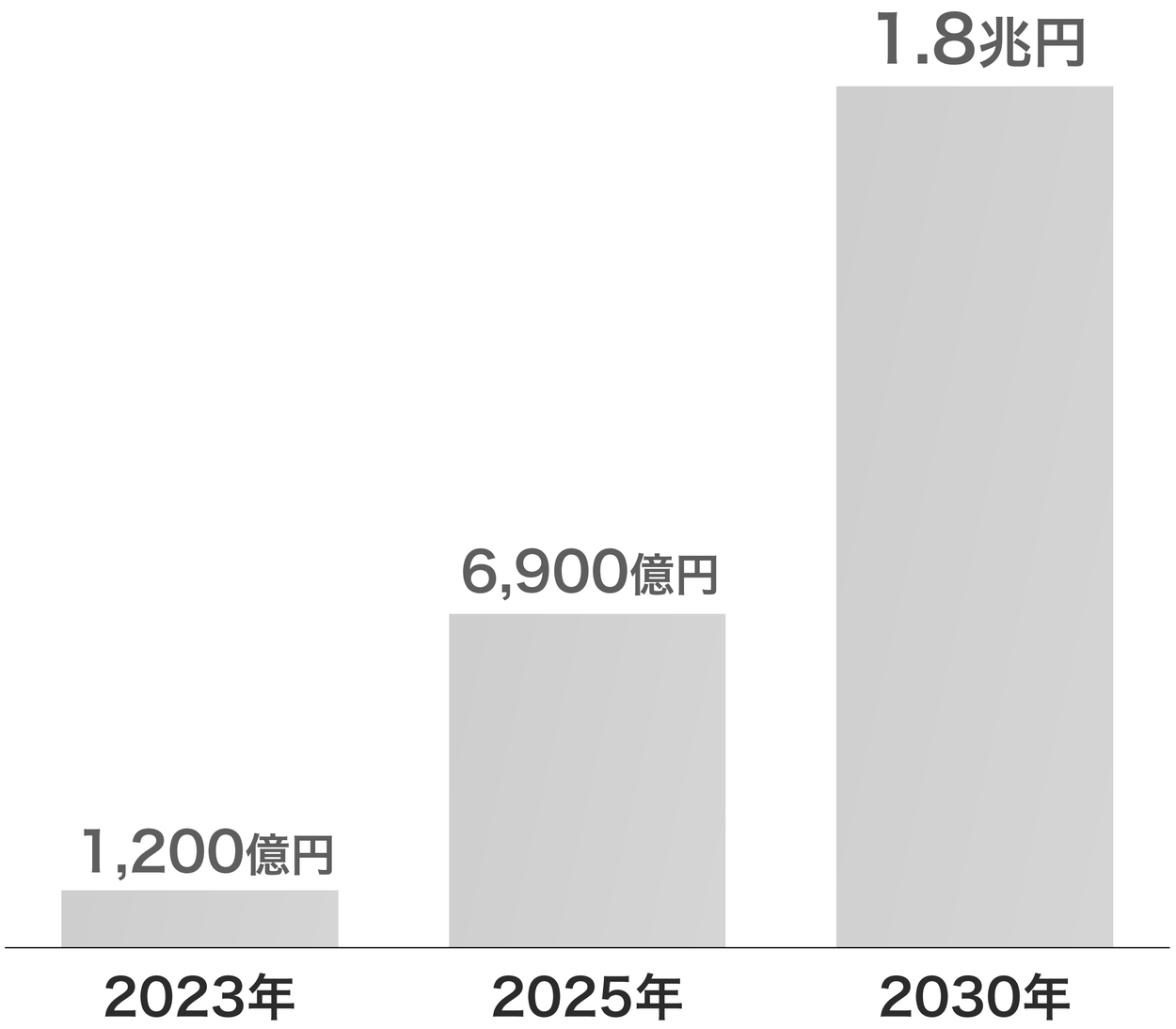
連結営業利益予想(成長投資考慮後)

[円]



中計目標の達成と
次期中計に向けた
成長投資を両立

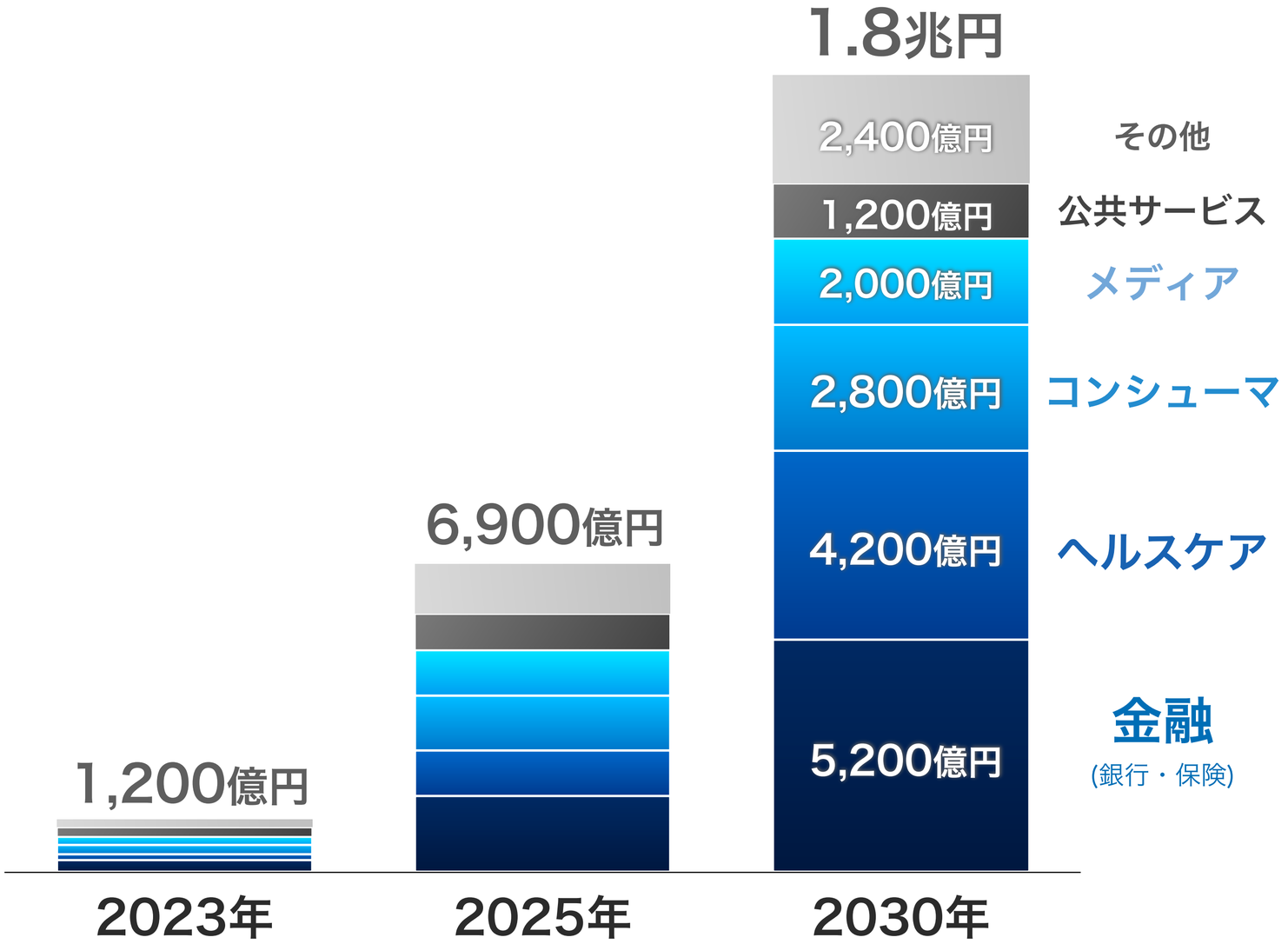
国内 生成AI市場規模



7年で
約15倍へ拡大

(出所) 生成AI市場の需要額見通し (日本)：生成AI市場の世界需要額見通しを発表、一般社団法人電子情報技術産業協会 (2023年12月21日)

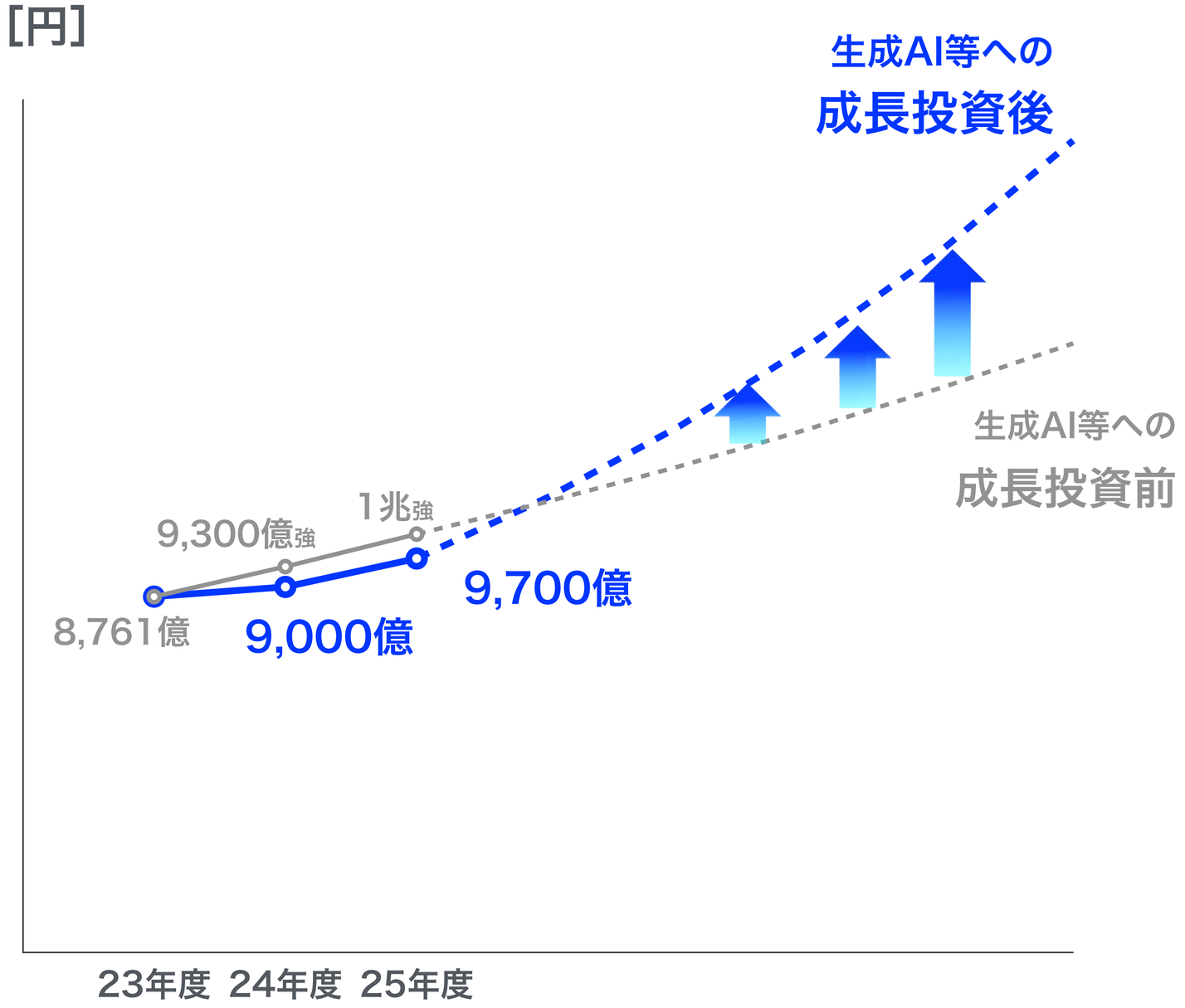
国内 生成AI市場規模 (産業別)



あらゆる産業に生成AIが導入

(出所) 生成AI市場の需要額見通し (日本)：生成AI市場の世界需要額見通しを発表、一般社団法人電子情報技術産業協会 (2023年12月21日)
BCG：AI TAM research; 専門家へのインタビューより、当社推計。

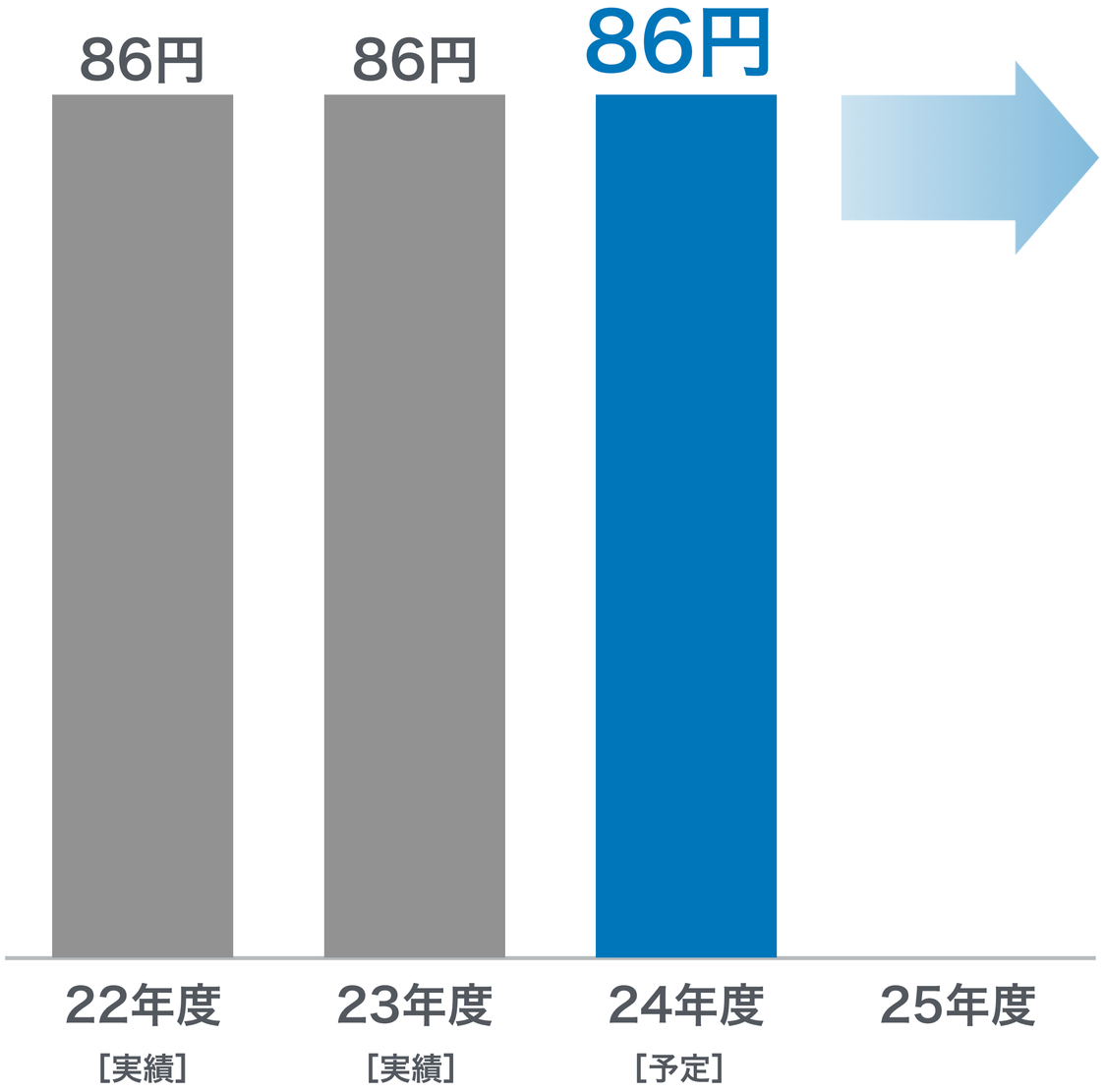
連結営業利益の長期的な考え方



生成AI等への投資で

成長加速へ

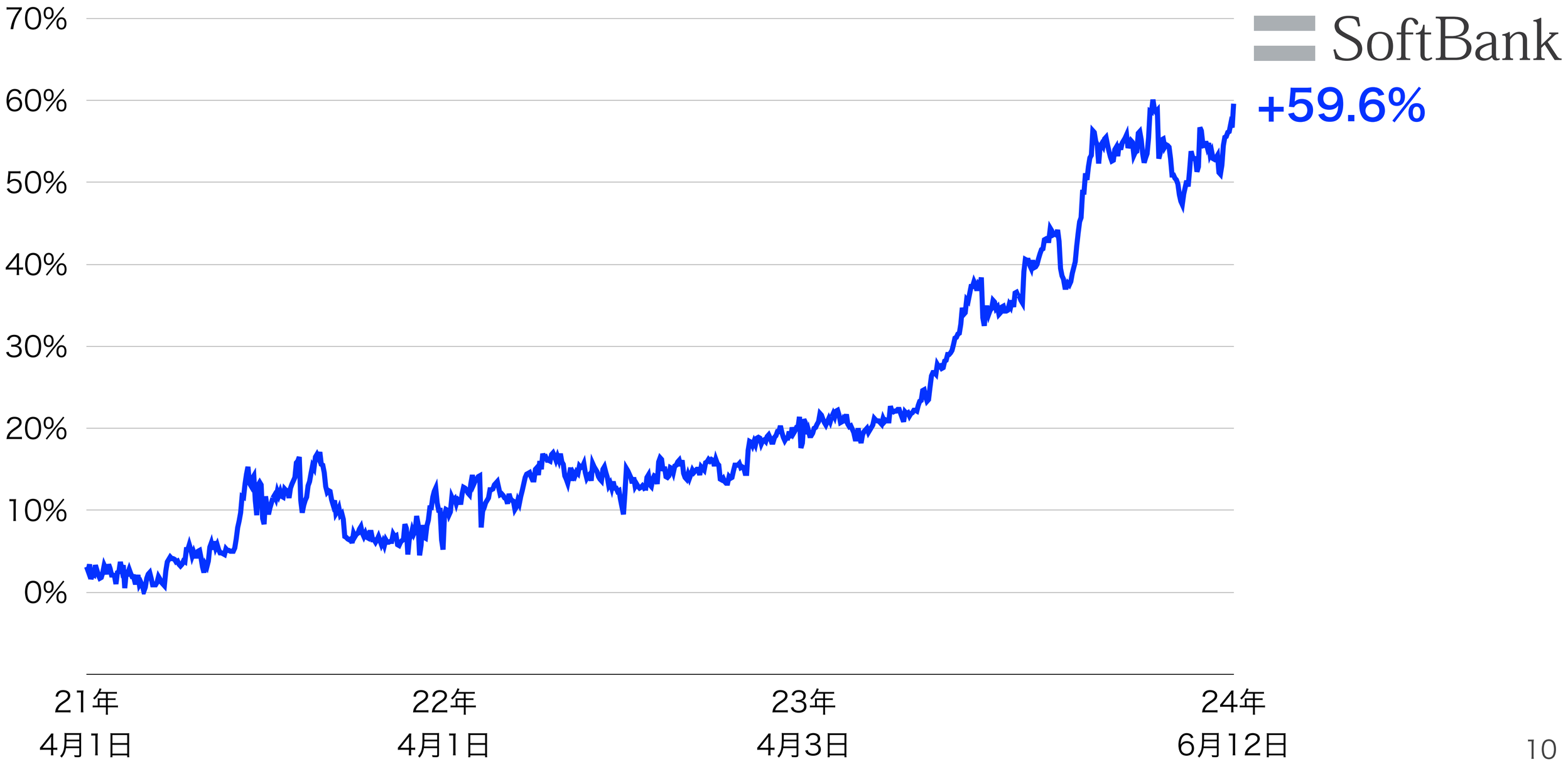
株主還元：1株当たり配当金



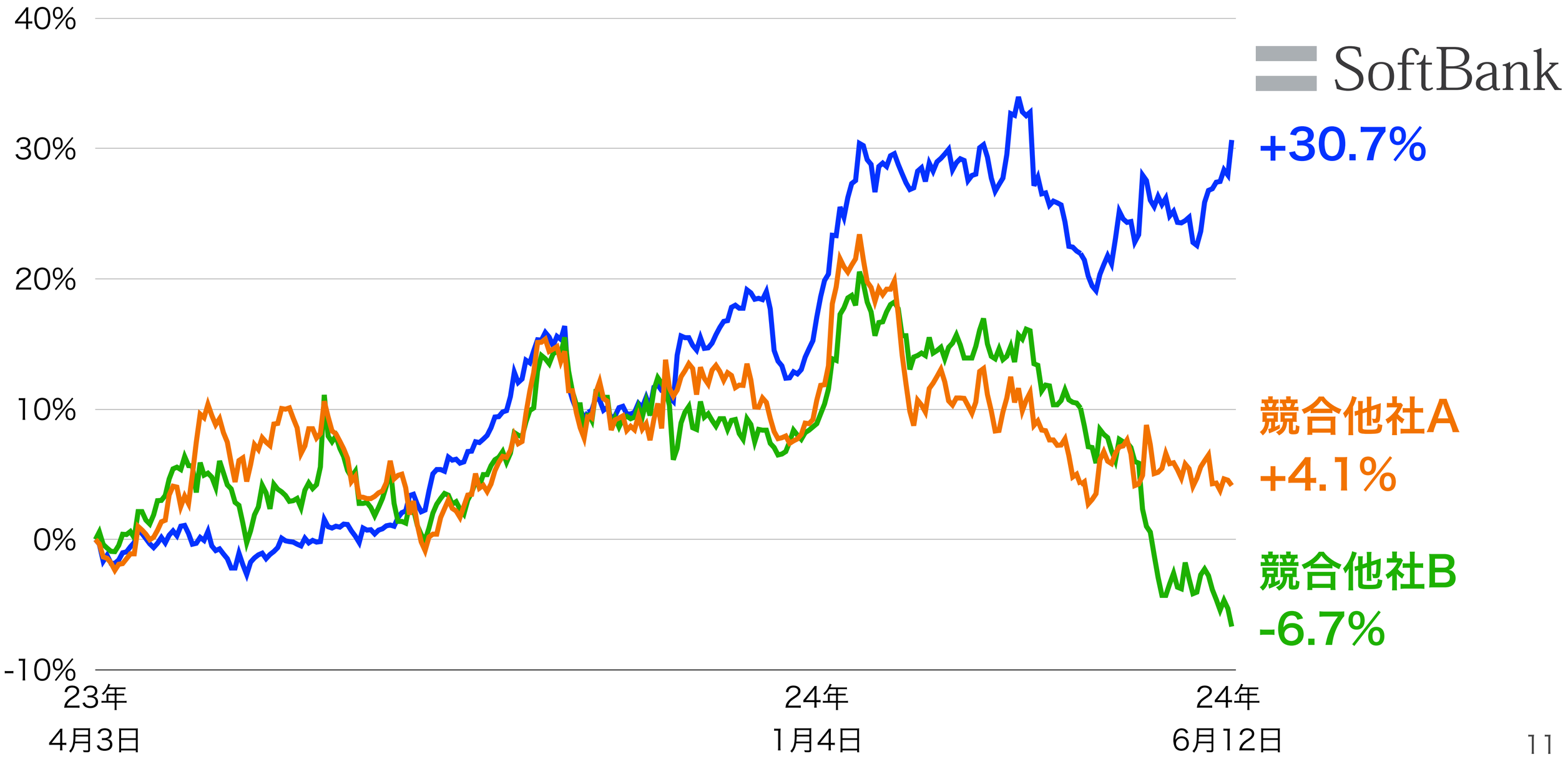
高水準の還元を維持

(注) 当社普通株式の一株当たり配当金。
2024年6月20日に開催予定の当社第38回定時株主総会において定款変更に関する議案が承認可決されることを条件に、
2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき10株の割合をもって分割する予定です。
上記の2024年度予想については、当該株式分割を考慮しない金額を記載しています。
2025年度以降の1株当たり配当金は、2024年6月現在で未定です。

株主総利回り(TSR)


70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
SoftBank
+59.6%
21年
4月1日
22年
4月1日
23年
4月3日
24年
6月12日

株価推移の比較(2023年度以降)



中長期的な成長と株主還元の両方を重視

中長期的な成長

重視

株主還元

最高益実現へ ※1

高水準を目指す

※1：2025年度の連結純利益の目標

さらなる成長に向けて

生成AIサービスの進化

(OpenAI社がリリースした主なサービス)

2022年11月

GPT-3.5

テキスト生成

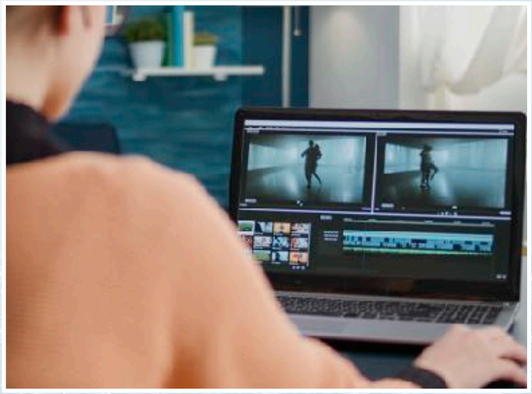
2023年9月

DALL-E3

画像生成

2024年2月

Sora



動画生成

2024年5月

GPT-4o

音声生成

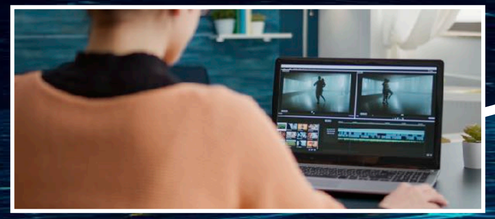
(注) 画像はいずれもイメージです

生成AIはマルチタスクへ

テキスト

画像

動画



音声

データ分析

質問応答

感情分析

物体認識

交通状況の
把握

同時翻訳

生成AIを活用したAIコールセンター

生成AI活用コンテスト

提案件数 (累計)	約16万件
特許出願数 (累計)	約1万件

優れた企画を
社長直轄で事業化

(注) 第1回～第6回の累計です

通信の高度化

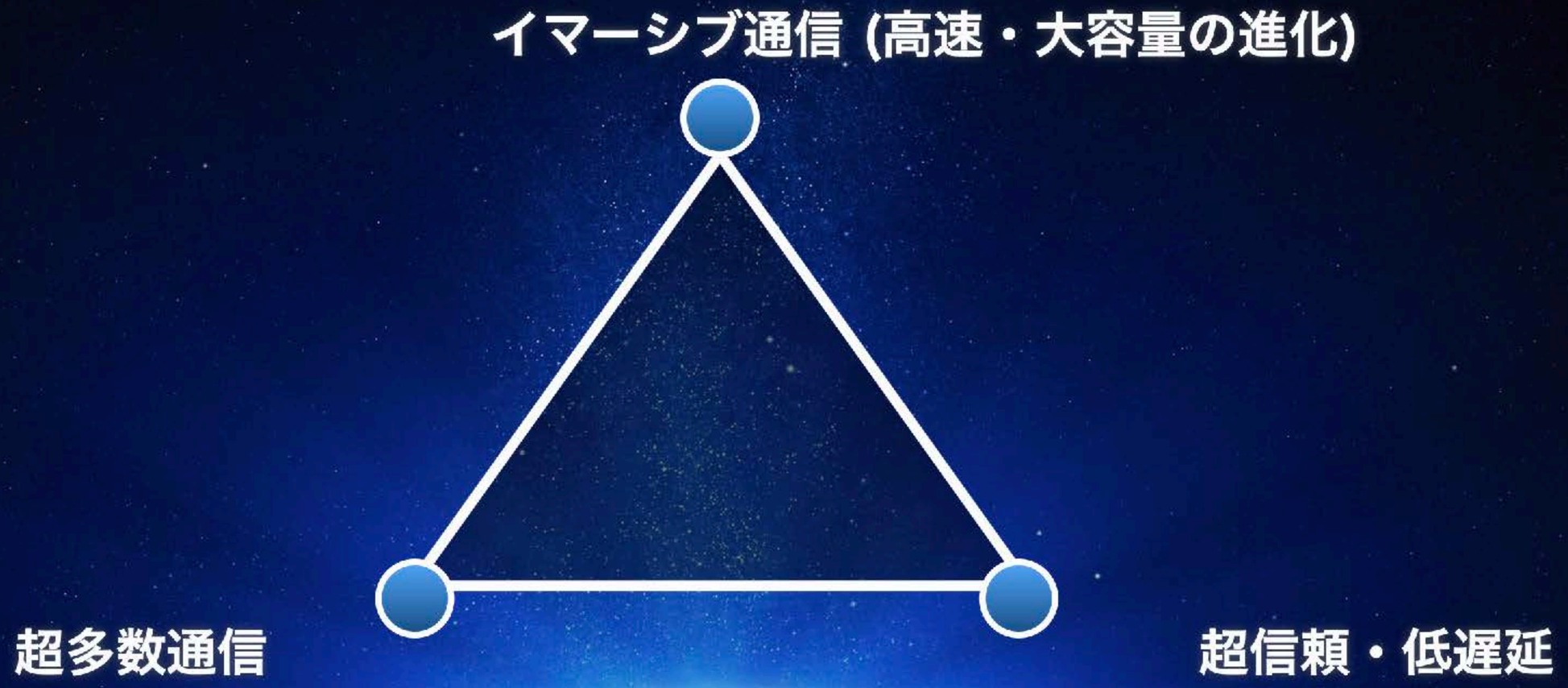
5G

超高速・大容量
eMBB

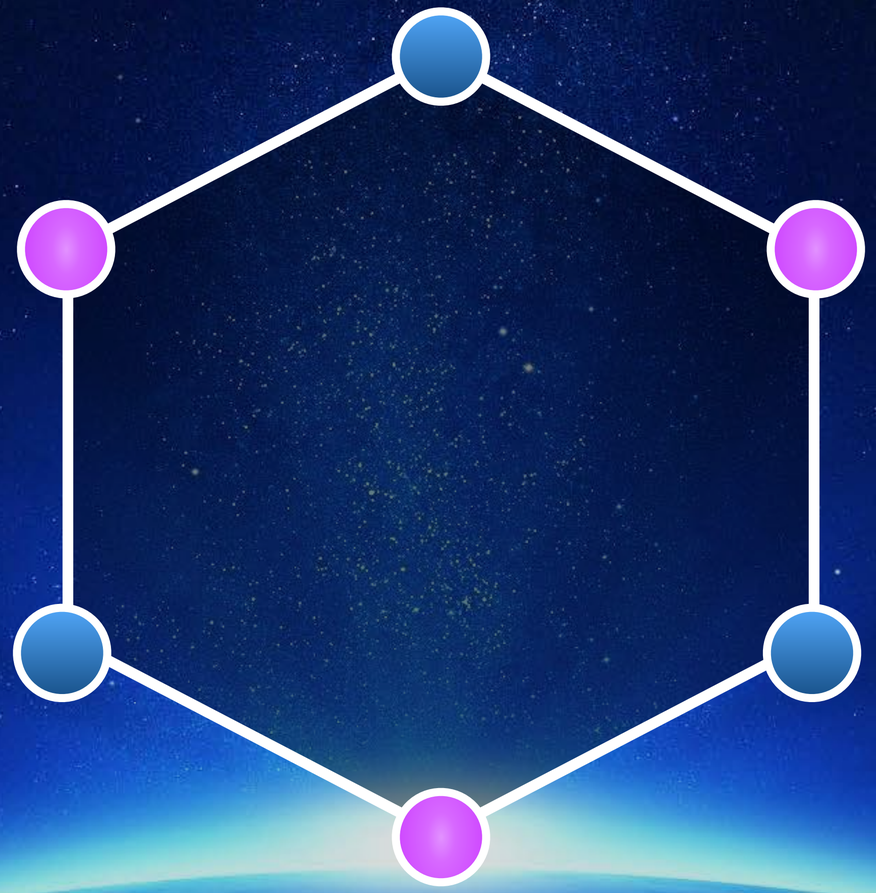
多数同時接続
mMTC

低遅延・高信頼
URLLC

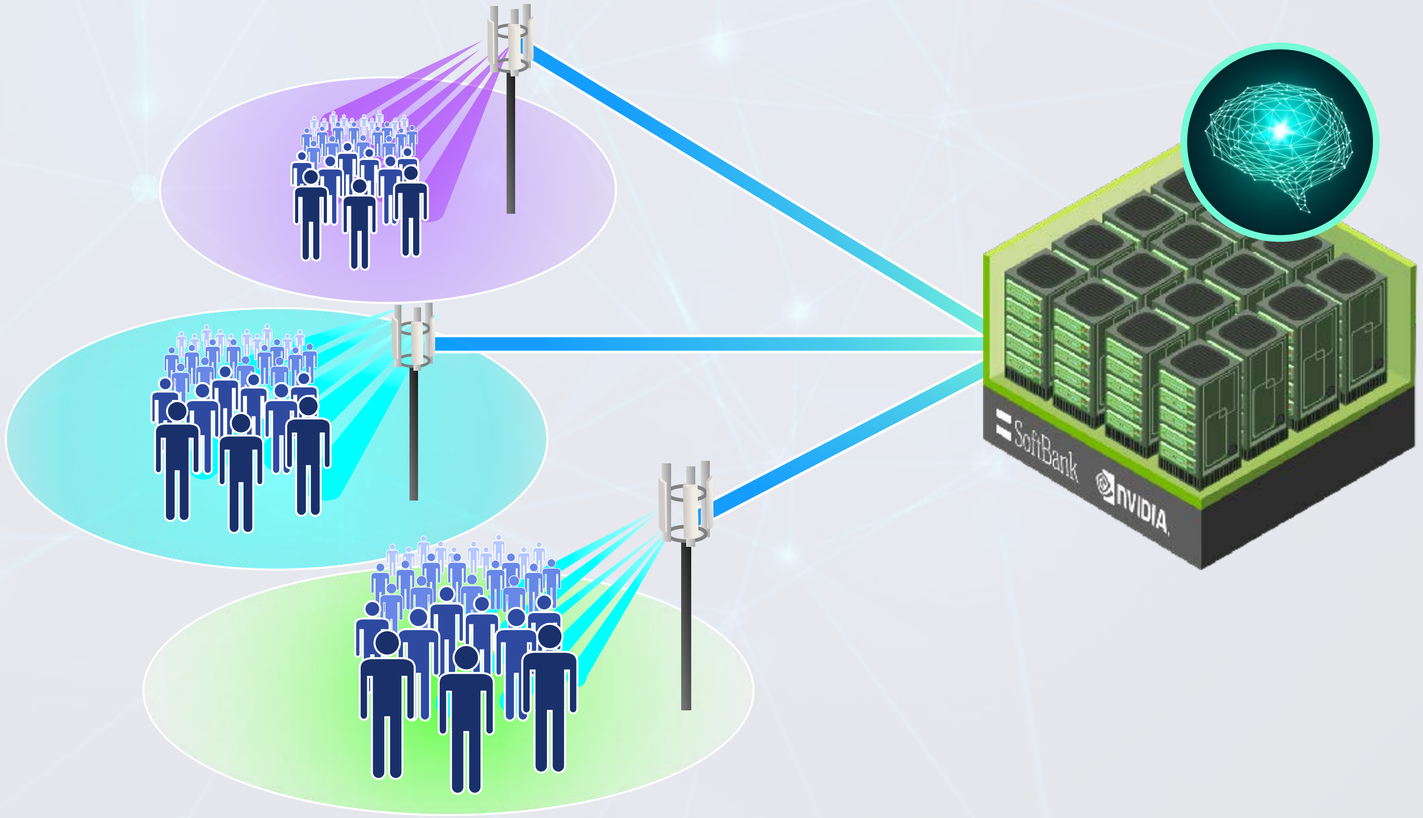
2024年 = 6G元年



2024年 = 6G元年


イマーシブ通信 (高速・大容量の進化)
通信とAIの融合
通信とセンシングの融合
超多数通信
超信頼・低遅延
ユビキタス接続

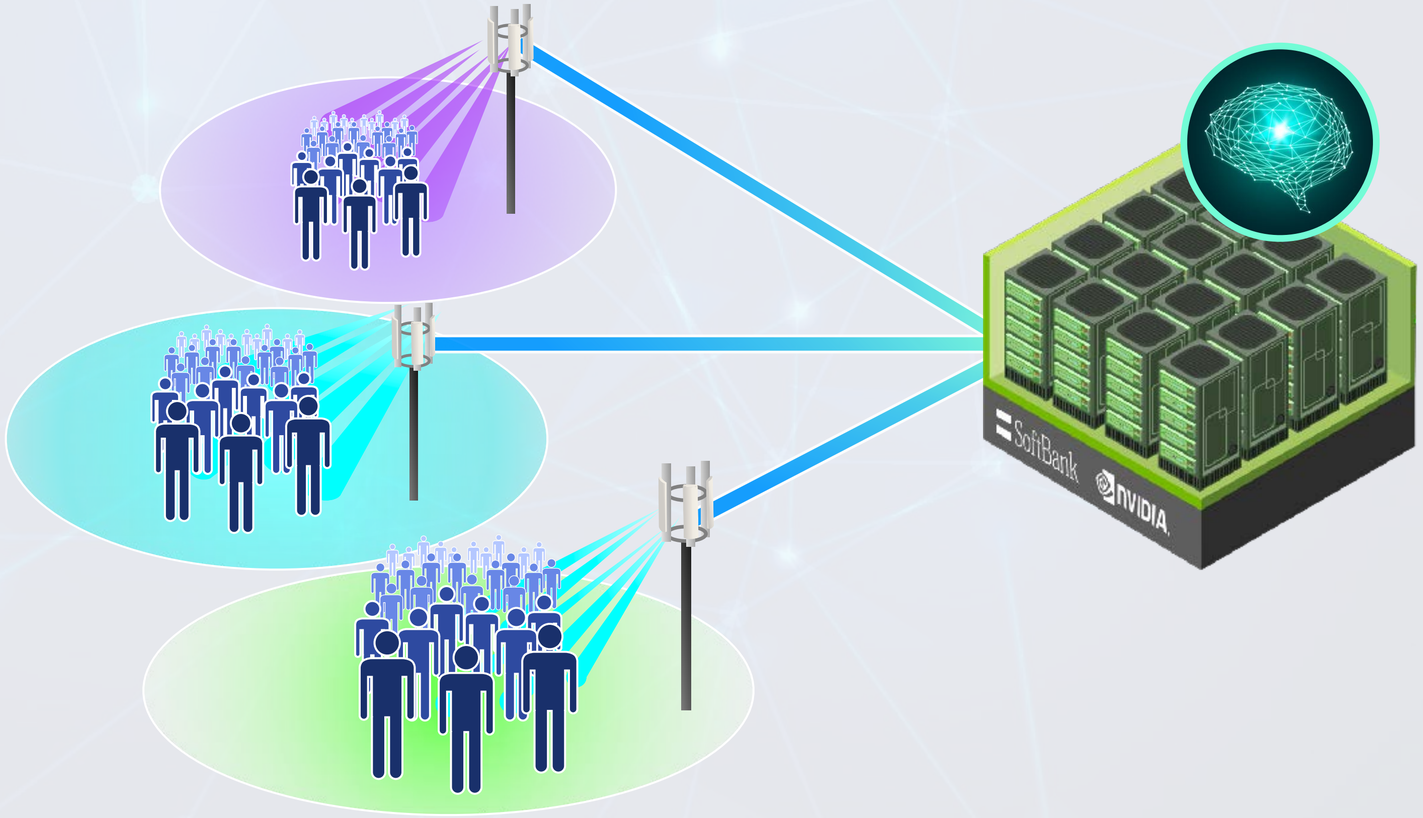
① 通信とAIの融合



RANの高性能化

(無線アクセスネットワーク)

① 通信とAIの融合



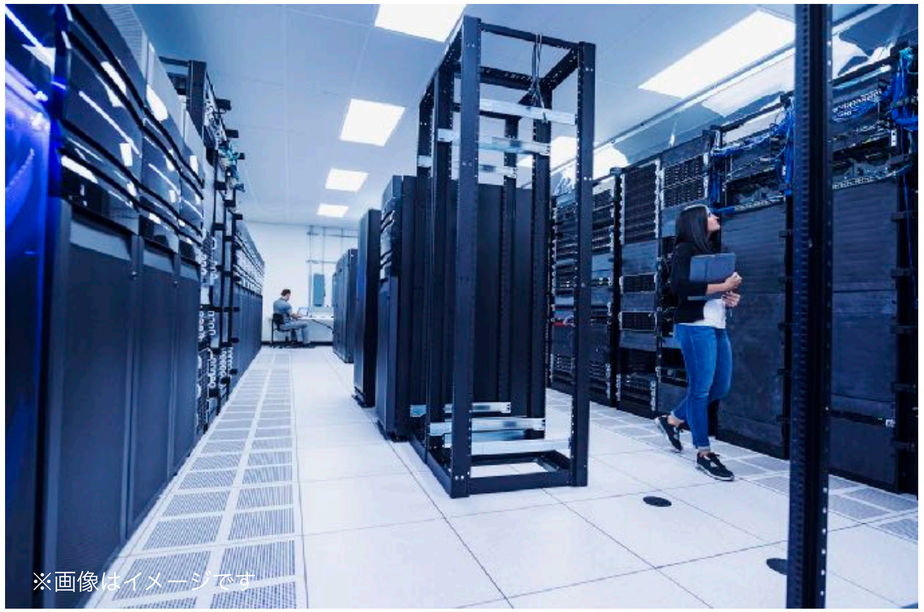
RANの高性能化
(無線アクセスネットワーク)

- 画像/映像解析
- 音声分析
- セキュア処理
- 移動制御(ロボット)
- 車両監視
- デジタルツイン処理

エッジアプリケーション
(デバイスに近いAIでデータ処理・提供するサービス)

AI-RANの開発および研究を推進するため
NVIDIAとの共同ラボを構築

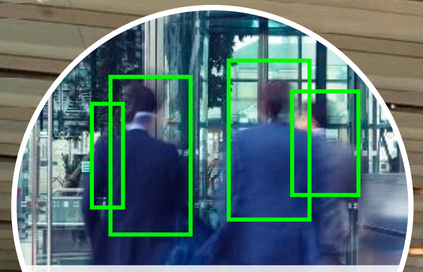
カリフォルニア州 サンタクララ本社



NVIDIA

②通信とセンシングの融合

プライバシーに配慮した
センシング実現に向けた取り組み(竹芝本社)



人数カウント

呼吸数の
測定

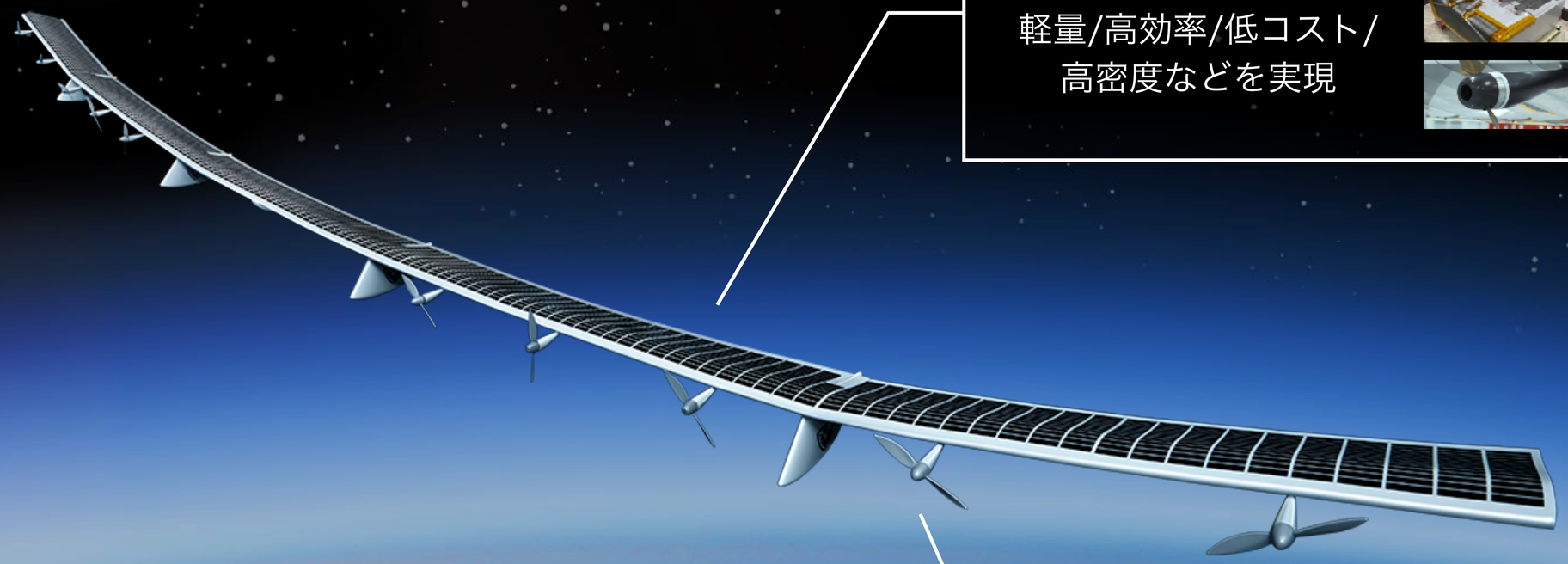
動作の検知

(注) 全ての実証内容ではありません

③ユビキタス接続

ソフトバンクのNTN構想

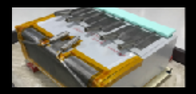
HAPSを構成する技術



要素技術

軽量/高効率/低コスト/
高密度などを実現

太陽光パネル

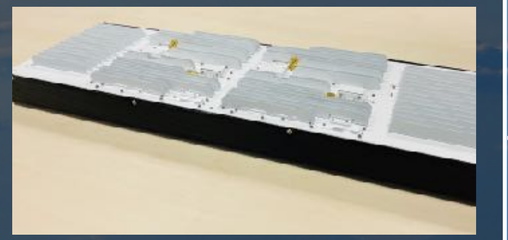


バッテリー

成層圏用モーター

通信技術

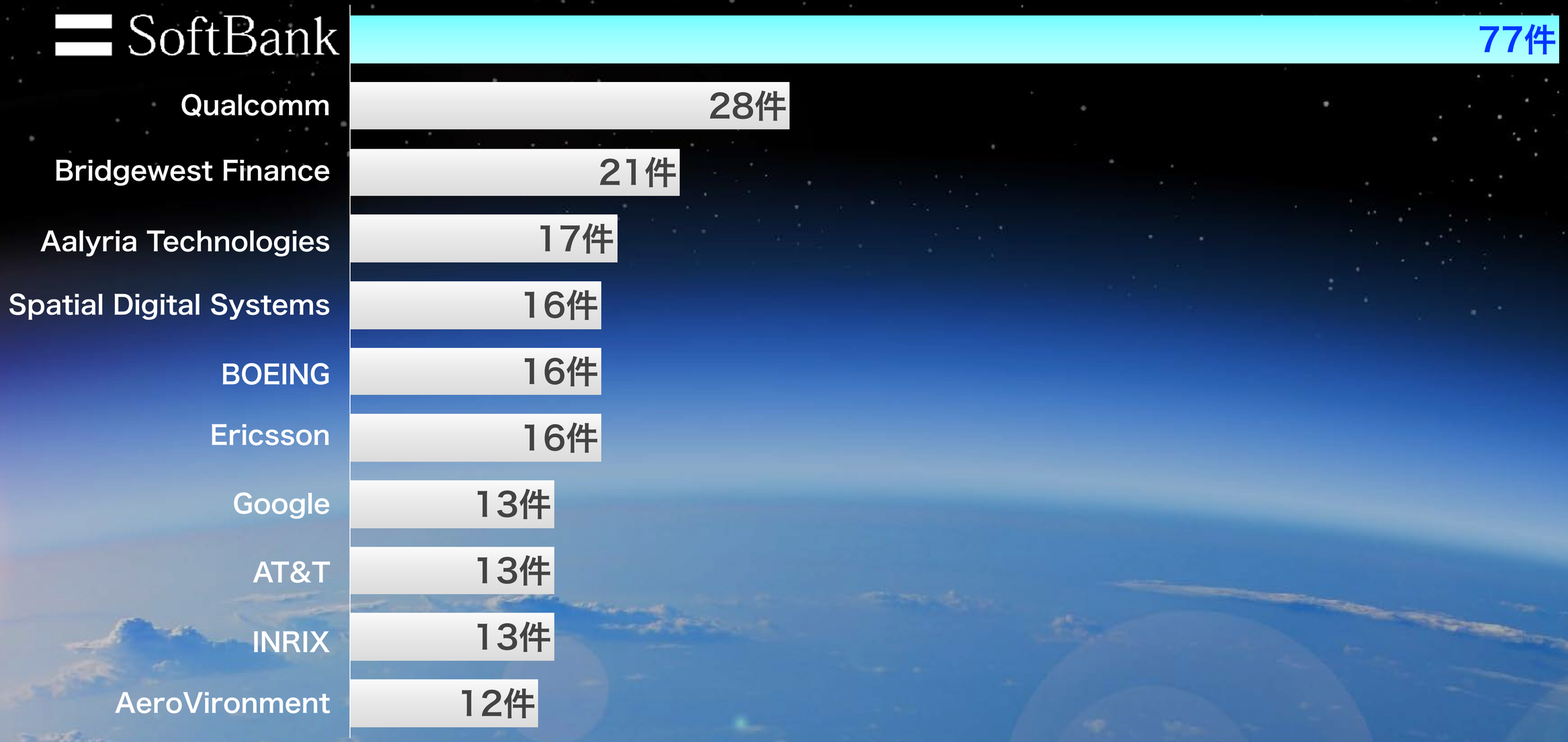
成層圏からの
安定した通信を実現



機体構造

成層圏環境で
大型かつ軽量/耐久性を実現

HAPS通信関連の米国特許権件数



(注) PatSnap社の「PatSnap Analytics」を用い、CPC(Cooperative Patent Classification)H04B7/18504が付与された権利存続中米国特許権を案件単位で集計（2024年6月14日時点）

未来社会を支える技術

世界の潮流

Amazon(AWS)

Microsoft

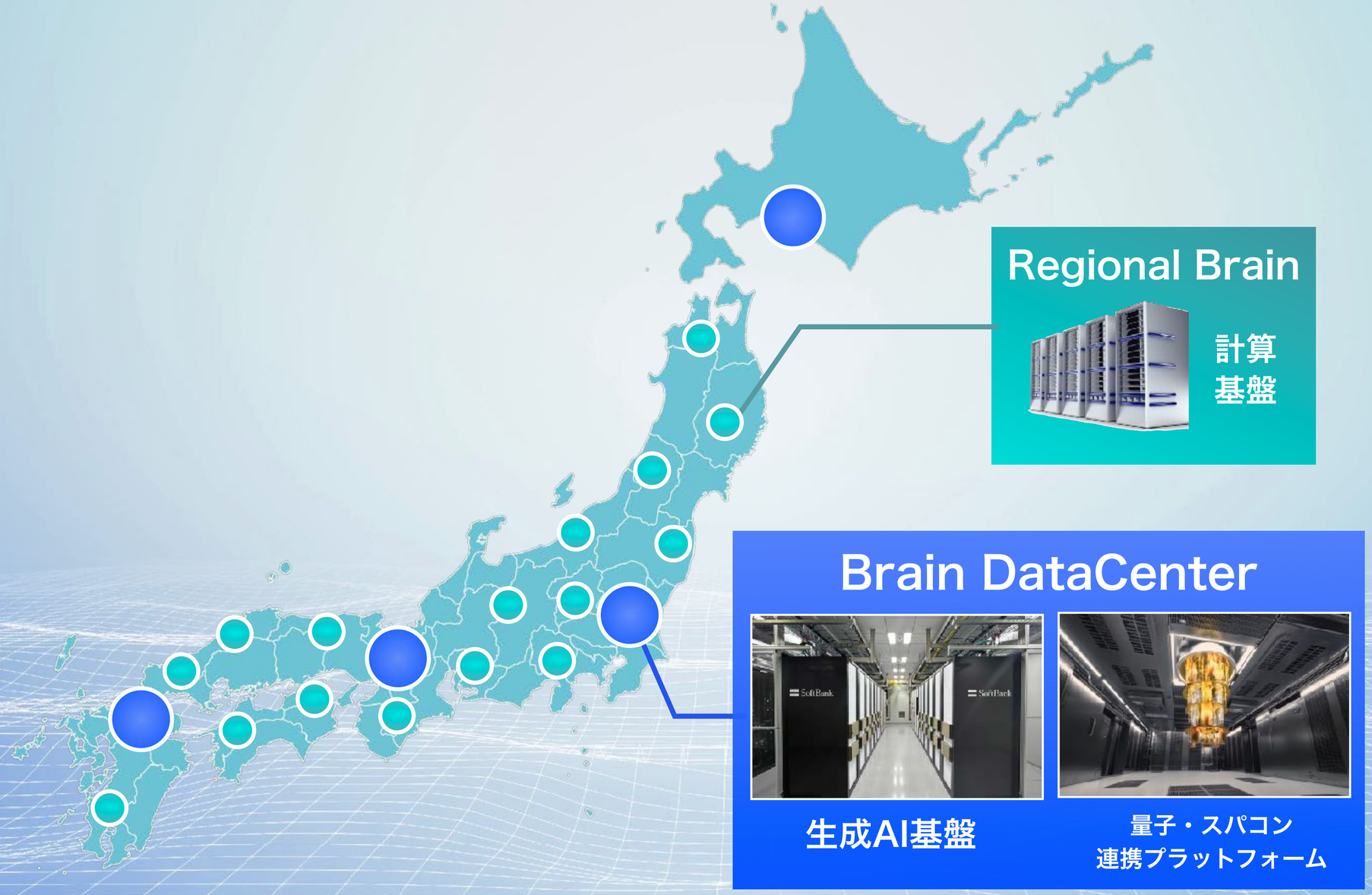
Meta

1拠点あたり：数GWクラス

一方、日本は国全体で約2GW

(出所)国内：国内の事業者データセンター電力キャパシティ予測(ITロード)2022年～2028年。2023年の実績値(IDC Japan2024)より当社作成
画像はイメージです

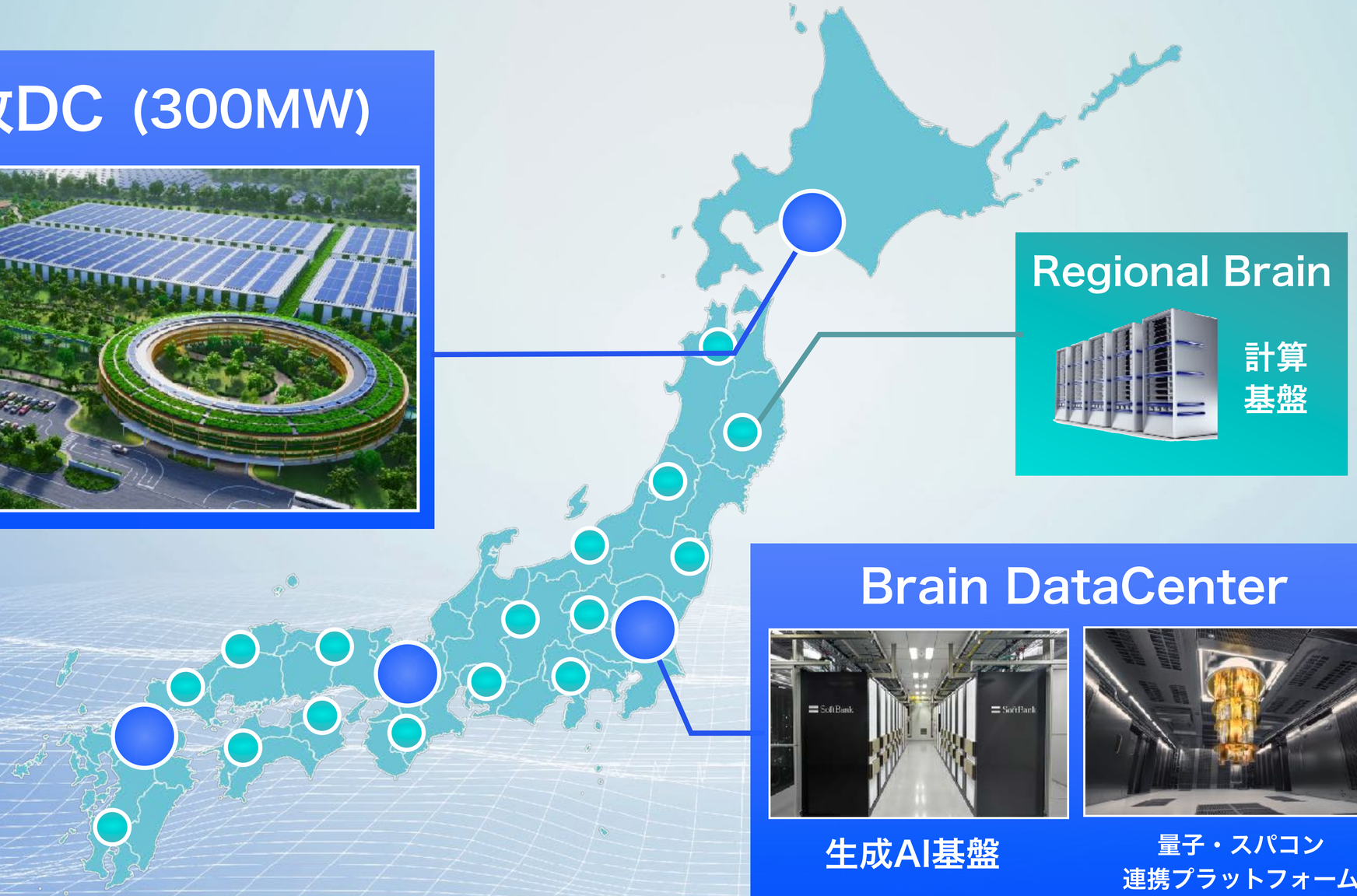
次世代社会インフラの構造 (分散型AIデータセンター)



次世代社会インフラの構造 (分散型AIデータセンター)

次世代社会インフラの構造 (分散型AIデータセンター)

苫小牧DC (300MW)



Regional Brain

計算
基盤

Brain DataCenter

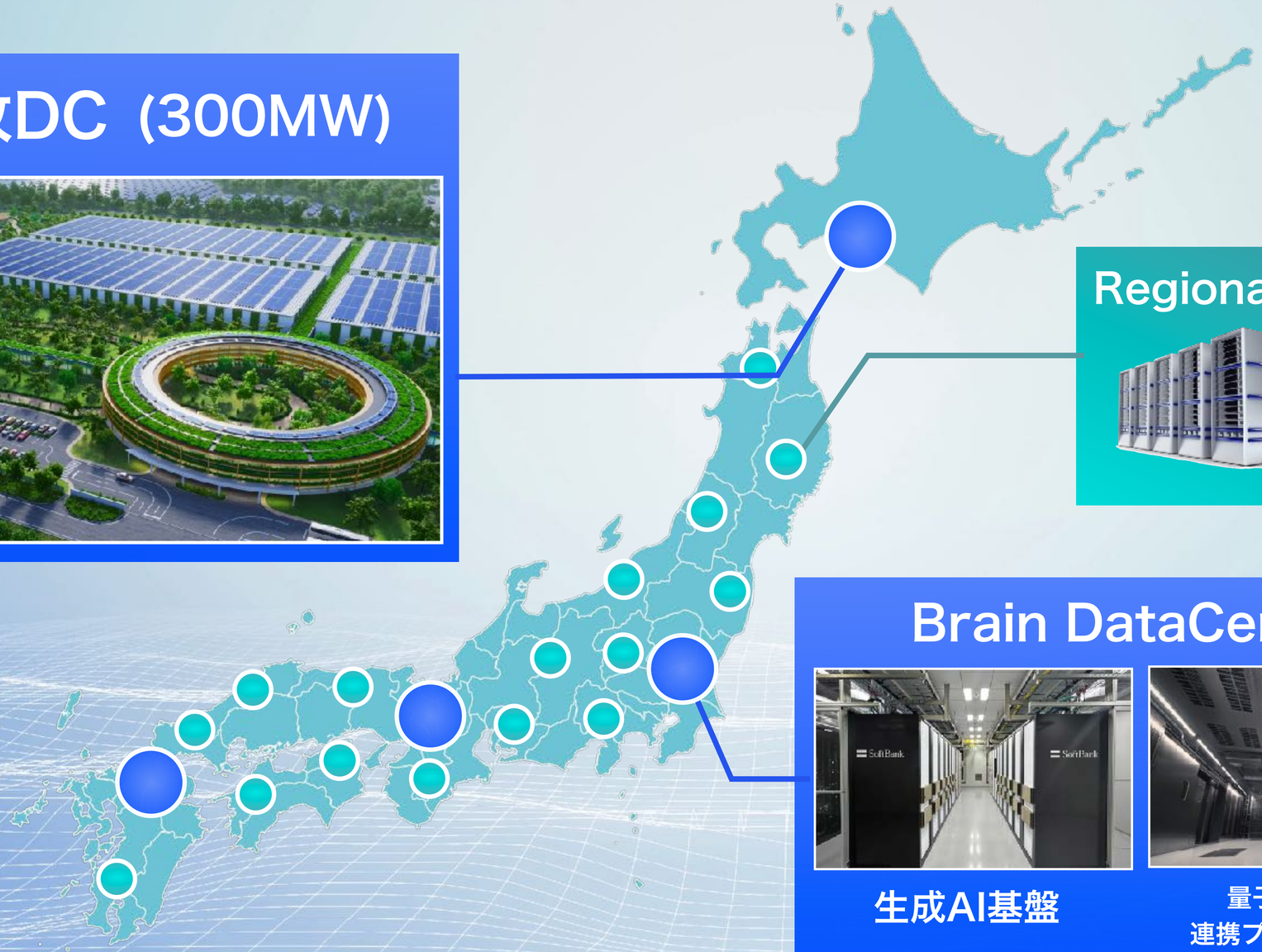
生成AI基盤

量子・スパコン
連携プラットフォーム

(注) 苫小牧DC：建設発表時のイメージ図であり、実際には異なります

次世代社会インフラの構造 (分散型AIデータセンター)

苫小牧DC (300MW)



Regional Brain

計算
基盤

Brain DataCenter

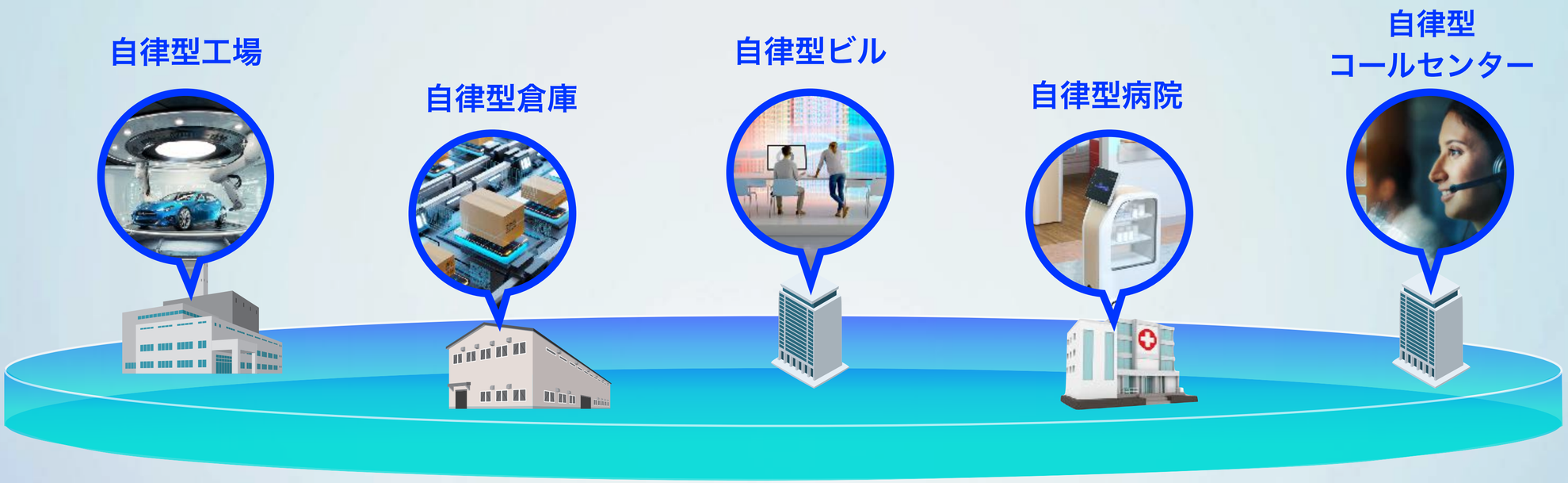
生成AI基盤

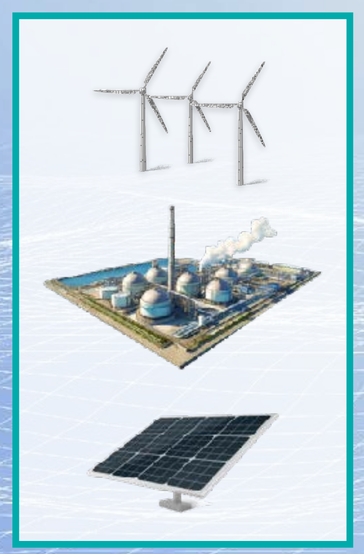
量子・スパコン
連携プラットフォーム

超分散
コンピューティング
基盤
(xIPF)

(注) 超分散コンピューティング基盤はxIPF(クロスインテグレーティドプラットフォーム)の一部の機能です
苫小牧DC：建設発表時のイメージ図であり、実際には異なります

産業の自律化を支えるAIデータセンター

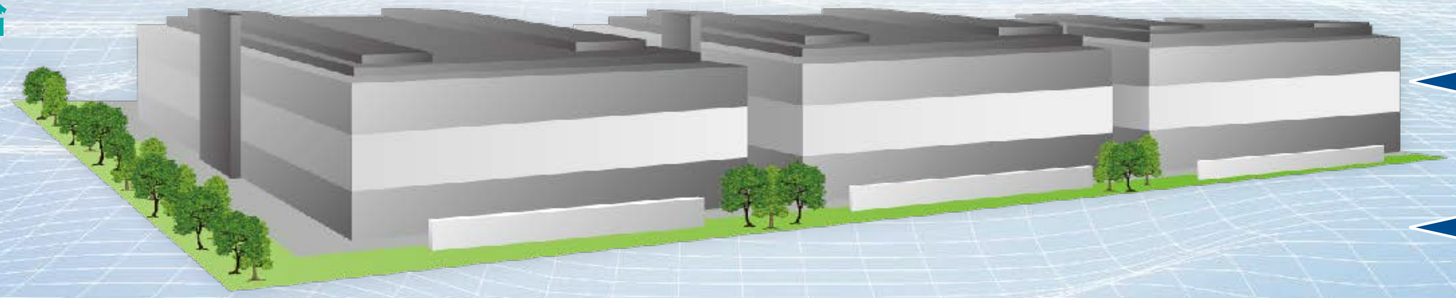




グリーン電力
供給

データ提供

AI(計算能力)提供



基盤モデル開発

推論モデル開発

マルチ生成AI開発

産業の自律化を支えるAIデータセンター

自律型工場

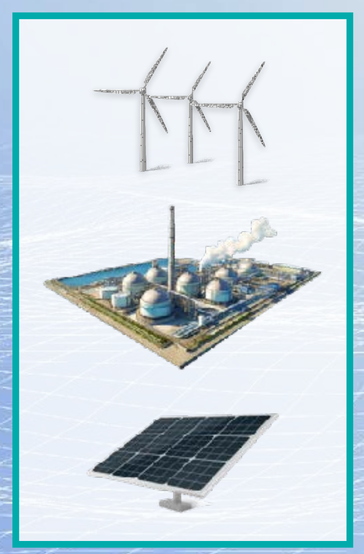
自律型倉庫

自律型ビル

自律型病院

自律型
コールセンター

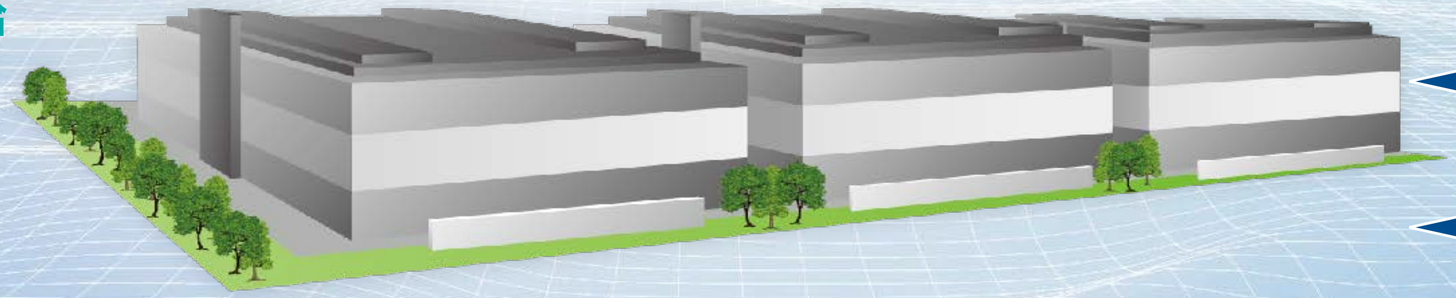
人手不足解消　**生産性向上**



グリーン電力
供給

データ提供

AI(計算能力)提供



基盤モデル開発

推論モデル開発

マルチ生成AI開発

テクノロジー企業に進化し
さらなる成長へ

SoftBank